

夏の4館連携事業及び各館企画展等の実施結果について

1 4館連携事業の結果について

東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に合わせ、文化の祭典でもあるオリンピック・パラリンピックの意義に基づき、博物館・記念館の回遊性を高め、区民が区の文化を再発見し、文化をアピールすることで区民の認知度が向上し、4館連携事業「おおた夏のミュージアムめぐり」を開催し、区のレガシーの一つとなった。

(期間)各館展示開始日から8月31日まで
(龍子記念館は8月15日まで)

(4館全館回遊者数) 151人 ※記念品贈呈



2 各館企画展等の結果について (11月14日まで)

(1) 郷土博物館

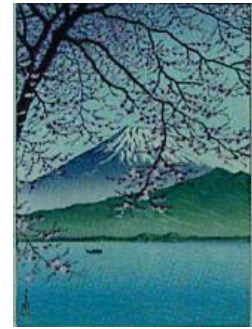
① 特別展「川瀬巴水-版画で旅する日本の風景-」

大正から昭和にかけて都内や日本各地の風景を描いた版画絵師・川瀬巴水(1883-1957年)の作品を展示した。

郷土博物館所蔵の作品を中心に前期190点、後期200点を展示した。後半は、入館制限も行うほど多くの来館者があり、ミュージアムグッズも数多く購入いただいた。

(期間)7月17日(土)から9月20日(月・祝)

(入館者数)11,626人



「大正三十五年」

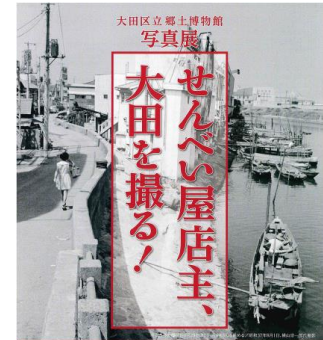
② 企画展(写真展)「せんべいや店主、大田を撮る！」

羽田で生まれ育った横山宗一郎(1920-1995年)氏は、せんべいやを営む一方、羽田や区内の風景の写真家として活躍された。寄贈を受けた昭和30-40年代の写真を展示し、かつての景観や暮らしを振り返る展示会である。

(期間)10月23日(土)から12月26日(日)

(入館者数)1,401人

※10月23日(土)から11月14日(日)までの集計



羽田弁天橋付近(昭和37年8月)

(2) 大森 海苔のふるさと館

写真展「東京オリンピックに沸いたあの頃の海辺」

前回の東京オリンピック当時の大森周辺の写真を展示し、町の変化を振り返る機会とした。

(期間)7月20日(火)から11月14日(日)

プレ展示 7月17日-18日

(入館者数)25,184人

※ふるさとの浜辺公園、平和の森公園の利用者の来館も多くある施設です。



大森の河岸の海苔干場(昭和38年1月撮影)

(3) 勝海舟記念館

① 企画展「所用品から見る海舟の姿」

幕末から明治を通じ、仕事や趣味など様々な活動をした海舟の^{かみしも}袴や仕事道具、茶器などの所用品を展示し等身大の海舟の姿を紹介した。

(期間) 7月2日(金)から9月12日(日)

(入館者数) 5,145人



企画展ポスター

② 開館2周年記念特別展

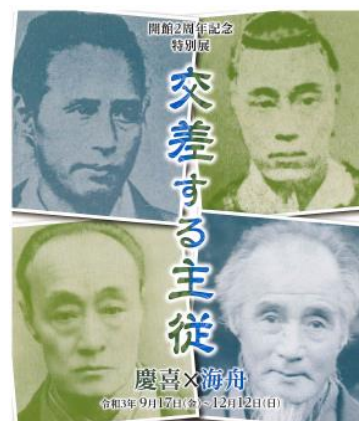
「交差する主従 慶喜×海舟」

激動の幕末を「共闘」し、江戸無血開城へと導いた徳川慶喜と勝海舟の若き日から晩年まで、知られざる約30年に渡る関係性を紐解いた展示会。

(期間) 9月17日(金)から12月12日(日)

(入館者数) 3,636人

※9月17日(金)から11月14日(日)までの集計



特別展ポスター

③ 開館2周年記念講演会【YouTube 配信】

「同時代を生きた3人」

～徳川慶喜・勝海舟・渋沢栄一～

(出演) 戸定歴史館名誉館長 齊藤洋一氏、
歴史タレント 堀口茉純氏

(配信期間) 9月7日(火)から9月30日(木)

(視聴者数) 延べ96,152回(序章、1部から4部に分けてYouTube配信した。)

※NHK大河ドラマの時代考証を担う斎藤氏の講演が好評であった。12/1-12で再配信する。

(4) 龍子記念館

① 企画展

「葛飾北斎『富嶽三十六景』×川端龍子の会場芸術」

北斎の富嶽三十六景と川端龍子が大画面に富士山を描いた作品を展示したものである。

(期間) 7月17日(土)から8月15日(日)

(入館者数) 2,462人



富嶽三十六景(神奈川沖浪裏)

② コラボレーション企画展

「川端龍子VS高橋龍太郎コレクション」

会田誠・鴻池朋子・天明屋尚・山口晃

令和2年12月に文化庁長官表彰を受賞した高橋龍太郎氏(区内で病院経営)所有の人気の現代アート作家と川端龍子の作品がコラボレーション。美術番組、プレス、SNSで広く取り上げられたことで、入館者が多かった。

(期間) 9月3日(土)から11月7日(日)

(入館者数) 7,265人



コラボレーション企画展ポスター